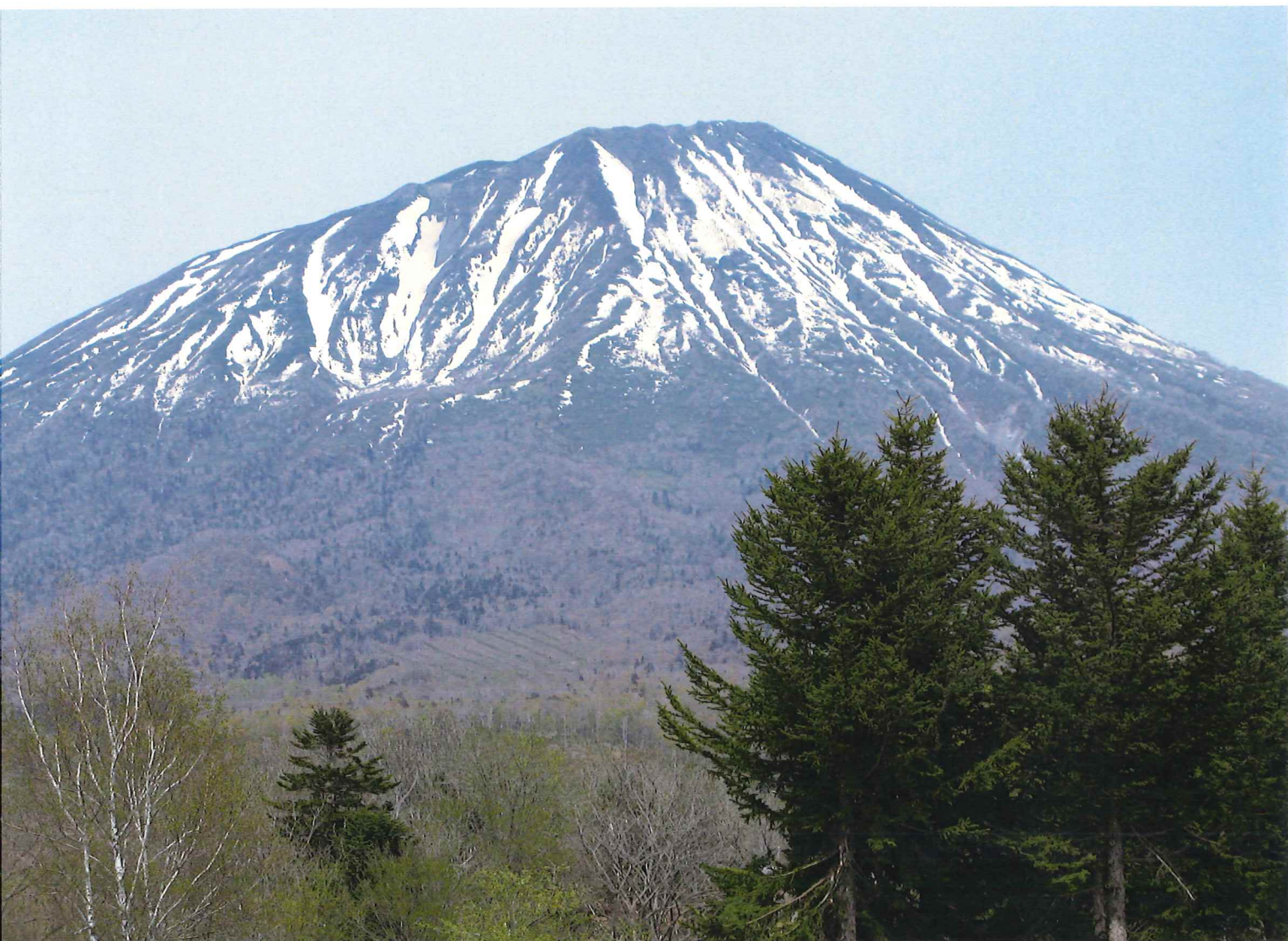




第63回

北海道高等学校登山選手権大会

兼第68回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会



主 催 北海道高等学校体育連盟・北海道教育委員会
北海道山岳・スポーツライミング連盟
後 援 倶知安町・共和町・ニセコ町・蘭越町・真狩村
倶知安町教育委員会・共和町教育委員会・蘭越町教育委員会
ニセコ町教育委員会・真狩村教育委員会
主 管 北海道高等学校体育連盟登山専門部
当番校 北海道小樽潮陵高等学校

2024年6月25日(火)～28日(金)
ニセコ連峰・羊蹄山



ご 挨拶

北海道高等学校体育連盟会長 駒 井 博 和
(北海道札幌白石高等学校長)

令和6年度全国高等学校総合体育大会北海道予選会の開会にあたりご挨拶申し上げます。本大会への出場を果たされた選手の皆さん、そして日頃から熱心に指導に当たられてきた指導者、学校関係者の皆様にお祝いを申し上げます。

昨年は36年ぶりに北海道でインターハイが開催され、北海道の19市町で高校生トップアスリートによる熱戦が繰り広げられました。大会においては、本道の高校生が大会の準備・運営・支援活動や総合開会式に携わり、大会の気運を高めるための高校生活動も積極的に行われました。出場した選手をはじめ、大会に関わる全ての高校生が「翔び立て若き翼北海道総体2023」の主人公として大いに活躍し、運動部活動や高校生スポーツの素晴らしさを全国に発信するとともに、日本国中の皆さんに勇気と感動を与えてくれました。

今年の夏のインターハイは、「駆け上がれ夢の舞台へ燃え上がれ若人の魂」をスローガンに、「ありがとうを強さに変えて北部九州総体2024」として、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県の北部九州4県、及びサッカー男子は福島県、サッカー女子は北海道、ヨットは和歌山県で開催されます。これまで皆さんは、全道大会出場、そしてインターハイに出場し日本一になることを目標に、同じ志をもつ仲間と励まし合い、指導者の方々に支えられながら厳しい練習を乗り越え、誰にも負けない技術と精神力を身につけ、今日この場に立つことができたものと思います。本日から始まるインターハイ出場の切符をかけた本大会においては、これまで真摯に競技に打ち込んできた皆さんの思い、皆さんの活動を支えてくれた家族や関係者の皆さんの思い、安全・安心な本大会の運営にご尽力いただいている関係者の皆さんの思いなど、本大会に関わるすべての人の思いを皆さんの一挙手一投足に込めプレーしてください。

また、高体連のマークを構成している三つの「K」は、「力」、「技」、「明朗な精神」を意味し、その色彩は「若人の情熱」を示しています。皆さんの三つの「K」と「情熱」は、間違いなく我々道民に明るい話題と勇気を与えることになります。最後の最後まで諦めることなく、精一杯のプレーで熱戦を繰り広げてくれることを期待しています。

結びとなりますが、本大会の開催に当たり、様々なご支援をいただきました地元市町村及び教育委員会、北海道スポーツ協会、関係競技連盟、そして当番校をお引き受けいただきました高等学校の校長先生をはじめ先生方、補助生徒の皆さんに心から感謝を申し上げご挨拶いたします。

歓迎の言葉

当番校 北海道小樽潮陵高等学校

校長 佐藤 一 昭

第63回北海道高等学校登山選手権大会兼第68回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会をめざし、全道各地から予選を勝ち抜き、本大会へ出場されました選手のみなさん、おめでとうございます。そして、ようこそ後志へ。当番校を代表しまして、心より歓迎いたします。

今年度、本大会は、ニセコ連峰（イワオヌプリ、ニトヌプリ、チセヌプリ）と羊蹄山を舞台に開催されます。1,000m級の個性豊かな山々が連なるニセコ連峰と、その美しい姿から「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山は、登山をはじめスキー、トレッキング、湖沼探勝など、様々なアウトドアスポーツの拠点として、近年、海外からの注目度も高まり、四季を通じて国内外を問わず多くの人たちが大自然の中で活動を楽しんでいます。特に、山頂に広がる360度の展望はとても美しく、多くの登山家から人気を博しています。日頃から、本格的に登山に取り組んでいる選手のみなさんにとりましても、大いに自然を満喫し、力の限りを尽くすことのできる大会になるものと期待しています。

さて、今、世の中は、日々急激に変化し、予測が難しい時代を迎えています。こうした中、私たちには、確かな知識や技能を身に付け、他者とコミュニケーションを図りながら、それらをよりよく活用し、客観的かつ科学的に思考力・判断力を巡らせ、粘り強く課題を解決していく力が求められています。こうした生きる力は、正に登山競技に通じるところであり、選手のみなさんは、本大会を通して一段とスキルアップされ、大きく成長されるものと確信しております。

一方、ここ数年、熱中症や落雷など、気象変動による事故が全道・全国において多発しており、各学校の皆様におかれましては、体調管理や安全確保に十分注意を払っていただくよう強くお願いいたします。

当番校としましては、安全を第一に、選手のみなさんが競技に集中できるよう全力で支援してまいりますので、各チームとも全国大会をめざし、これまでの努力とトレーニングの成果、チームワークを最大限発揮され、思い出に残る大会にしてくれることを願っています。

結びになりますが、今大会の運営を支えてくださる登山専門部の皆様、各校顧問の先生方、倶知安町、共和町、蘭越町、ニセコ町、真狩村をはじめ関係の皆様は心より感謝申し上げ、歓迎の言葉といたします。

大会役員

名誉大会長	石井昭彦		
大会長	駒井博和		
副大会長	渡邊邦夫 斉藤光一 松田圭右	壽淺章洋 橋本達也 澤田時人	駒井信和 中島泰彰
顧問	文字一志 金秀行 中島俊明	成田慎一 岩原清一 荒川裕生	片山健也
参与	山城宏一 高野智史	国安隆 高野瑞洋	増澤由人
大会委員長	佐藤一昭		
大会副委員長	越亮文		
大会委員	土居昌彦 桂讓彰 中島泰宏 畑野和樹 塩谷和夫 藤本秀人 水野宣幸 木村宣幸	小野寺明彦 高野純平 小池圭太 山納秀俊 三戸一三 飯田森一 玉佐々木亮介	小師良仁 武田健介 内海健一 大井聡法 宮澤宜尊 中新井教一 板垣教一 細野護
安全対策委員長	小野倫夫		
安全対策副委員長	小池圭太	山納秀俊	
安全対策委員	木谷弥彦	宮澤宜法	

大会実行委員

審査委員長 北海道高体連登山専門部専門委員長 小池圭太

男子隊隊長 北海道帯広柏葉高等学校 蓑口一哲

女子隊隊長 北海道旭川工業高等学校 細野護

コースパイロット 小池圭太(旭川工業) 日向真樹(室蘭栄)

	【男子】	【女子】
副隊長	佐々木亮介(札幌北)	藤原浩二(有朋苫小牧)
	塩谷和樹(市立函館)	中新井尊(北見北斗)

行動中審査チーフ 木村宣幸(北広島) 玉森一(釧路湖陵)

審査及びサポート

内海健一(旭川工業)	畑野和宏(遠軽)	大井聡(札幌工業)
三戸渉(室蘭栄)	宮澤宜法(小樽潮陵)	藤本和夫(岩見沢東)
飯田一三(旭川東)	水野秀人(帯広大谷)	板垣教一(江別)
山本圭一(帯広農業)	村松俊輔(帯広柏葉)	澤田大輝(札幌南)
鈴木容佳子(江別高校)	木谷弥彦(小樽潮陵)	梅川悟史(岩見沢東)
松永直樹(函館ラサール)	猪股整(市立函館)	田中拓己(札幌北)
増田光博(旭川東)	白戸悠真(旭川工業)	上内智英(釧路湖陵)
高橋美香子(北広島)	竹久尚輝(帯広農業)	佐々木隆光(帯広柏葉)
石丸高志(旭川西)	大塚徹(札幌南)	松本奈巳(札幌北)
小野泰章(北見北斗)	柴田一(室蘭栄)	アレックス・クチュール(北星女子)
岩橋一成(北星女子)	酒井一明(札幌南)	丹野裕之(旭川西)
岡崎知之(旭川北)	及川香織(旭川北)	竹中正喜(釧路商業)
山下文孝(高体連OB)	西千秋(高体連OG)	桐尾義之(高体連OB)
谷山直俊(遠軽消防)	細野瑛(高体連OG)	

ペーパーテスト 佐々木亮介(札幌北)

天気図 木村宣幸(北広島)

現地本部 山納秀俊(小樽潮陵)

大会事務局

総務	山納秀俊	宮澤宜法	木谷弥彦
競技	山納秀俊	宮澤宜法	木谷弥彦
輸送	西村真	近畿日本ツーリスト	
救護	水野智吉	千葉万紀	
記録	江畑慶洋	千葉万紀	
会計	田村倫宏	江畑慶洋	

開 会 式

1. 開式通告
 2. 開会宣言
 3. 優勝杯返還・レプリカ授与
 4. 大会長挨拶
 5. 大会委員長挨拶
 6. 審査委員長挨拶
 7. 選手宣誓
 8. 閉式通告
- *当番校より連絡

閉 会 式

1. 開式通告
 2. 成績発表
 3. 優勝杯・賞状授与
 4. 審査委員長講評
 5. 大会委員長挨拶
 6. 閉式宣言
 7. 閉式通告
- *当番校より連絡

講演会「山で死にそうになった話 ～ 安全登山のために」

講師：山下文孝先生

(講師プロフィール) 1949年愛知県に生まれ、1969年大学に入学するために北海道に渡り、ワンダーフォーゲル部に入って登山を始める。それ以来、今日まで北海道の山を中心に登山を続け、道内のほとんどの山を登り終え、70を過ぎた今でも登山を楽しんでいる。

研究課題「ヒグマの生態と登山時の注意」

大会の審査要領

1. ペーパーテスト (登山についての基礎知識) 10点 (3人の平均点)
2. 行動中テスト 5点
 - (地点確認ポイントによる読図…2点)
 - (隊長からの読図・自然等に関する質問…3点)
3. 審査の配点

①体力	30点	②歩行	20点
③装備	10点	④設営・撤収	5点
⑤炊事	5点	⑥気象	5点
⑦計画・記録	5点	⑧マナー	5点

大会日程

1日目 25日(火)

- 11:00 受付開始(ヒルトンニセコビレッジ、12:30まで)
- 11:30 専門委員会・安全対策委員会
- 13:00 開会式
- 13:30 装備審査
- 14:00 監督会議(天気図審査・ペーパーテストと同時進行)
- 14:00 天気図審査(～14:40)
- 14:00 ペーパーテスト(～14:30)
- 14:50 講演会「山で死にそうになった話～安全登山のために～」
講師 山下 文孝 氏(高体連登山専門部OB)
- 15:40 審査委員会(役員会)
- 17:00 夕食
- 20:00 就寝

2日目 26日(水) *男子は全装行動、女子はサブザック行動 *男女ともパノラマライン峠までチーム行動

- 4:00 起床
- 5:00 ヒルトンニセコビレッジ出発 *入浴道具は出立前にバスに積み込む
(顧問・役員は各自で五色温泉登山口駐車場まで移動)
- 5:40 五色温泉登山口駐車場着
- 6:00 登山開始
- 7:00 イワオヌプリ山頂(火口縁を反時計回り。1,116mピークには行かない)
- 8:20 ニトヌプリ山頂
- 9:00 パノラマライン峠(隊編成後9:30出発) *携帯トイレブース設置
- 10:30 チセヌプリ山頂
- 12:00 長沼
- 12:35 神仙沼
- 13:00 ニセコ神仙沼自然休養林休憩所駐車場
- 13:20 バス乗車(顧問バスは五色温泉まで。五色温泉からは各自で真狩へ)
- 14:10 幕営地着
- 14:30 幕営審査
- 15:30 炊事審査
- 16:30 安全対策委員会(真狩キャンプセンター)
- 17:00 ペーパーテスト・天気図返却
- 20:00 就寝

3日目 27日(木) *男女ともサブザック行動、避難小屋までチーム行動

- 4:00 起床 朝食
- 5:00 幕営地出発(真狩コース)
- 8:10 避難小屋(隊編成後8:40出発、比羅夫分岐経由で山頂へ)
*女子は8:30避難小屋着、9:00避難小屋発
*トイレ使用可(協力金300円をご用意します)
- 9:50 羊蹄山山頂(10:30山頂出発、北山経由・比羅夫コースで下山)
- 12:20 五合目
- 14:00 比羅夫コース登山口
- 14:20 バス乗車(半月湖駐車場)
- 15:30 入浴(真狩・ニセコ・京極温泉に分散)
- 17:00 交流会(京極町 ミートショップあんぼ)
- 18:30 交流会場出発
- 19:00 幕営地到着
- 21:00 就寝

4日目 28日(金)

- 6:00 起床 朝食
- 8:00 審査委員会(森林学習展示館学習室)
- 9:00 テント撤収
- 9:30 閉会式
- 10:00 解散

- 5 荒天対策
- 2日目 ①全区間隊行動に変更する
②イワオヌプリはコースからカットする
③ニトヌプリ登頂後、パノラマライン峠で行動中止
 - 3日目 ①全区間隊行動に変更する
②9合目手前の分岐から避難小屋を経由し比羅夫コースで下山
③7合目から真狩コースを引き返す

コース概況 1 ニセコ連峰縦走（イワオヌプリ～ニトヌプリ～チセヌプリ）

今大会の会場地である、イワオヌプリ、ニトヌプリ、チセヌプリは、ニセコ積丹小樽海岸国定公園に含まれるニセコ連峰と呼ばれる山域に属する山である。ニセコ連峰は、岩内町、共和町、倶知安町、ニセコ町、蘭越町にまたがり、東西およそ25kmに連なる火山群であり、最高峰は標高1308mのニセコアンヌプリで、この山から、連峰の最も西に位置する標高1211.7mの雷電山まで、長大な縦走路が開かれている。この日の山行で使用する国土地理院発行25,000分の1地形図の図葉名は「チセヌプリ」と「ニセコアンヌプリ」であるが、いずれも磁北は西偏およそ10度である。

イワオヌプリは、ニセコ山系で最も若い火山である。頂上部の火口が馬蹄型にへこみ、斜面の各所に黄色い硫黄の結晶がたくさん見つかる。アイヌ語名もイワウ・ヌプリ（硫黄の山）である。山の姿もニセコの他の山に比べ急峻な岩山で、遠くからでも一目でそれとわかる特徴的な山である。イワオヌプリの登山口は五色温泉のそばにある。登山口の横に流れる川は、ニセコアンベツ川だ。ニセコアンベツ川にかかる橋を越えたところにはお花畑があり、ガンコウラン、イソツツジ、シラタマノキ、アカモノが咲いている。登山ポストはおおよそ標高820m付近にあり、蘭越町に位置する。登山ポストを越えて、木でできた階段を登ると、かん木帯に入る。かん木帯には、マイヅルソウ、ツバメオモトが多い。6月中旬頃までは、ここから先は、残雪に覆われていることが多い。

標高930m付近に、直進するルートと右に分かれる分岐（イワオヌプリ分岐）があり、進路を右（東）にとり、イワオヌプリへ向かう。岩の多い斜面には、コケモモ、ガンコウラン、イソツツジ、ミヤマハンノキ、ハイマツが多い。かん木帯から出るため、眺めがよくなる。ニセコアンヌプリが南東に見えるようになる。

馬蹄型の大きなクレーターの縁に出ると、正面奥にはイワオヌプリの頂上が見える。火山灰や火山れきの斜面であり、どこでも歩けるため、ガスが出た際は迷いやすいので注意が必要である。山の斜面には、球形の枕状の溶岩、硫黄が吹き出した跡など、火山が活動した生々しい形跡が残っている。イワオヌプリの標高は1116mであり、1116m地点は倶知安町に位置するが、登山道はその手前でUターンしている。イワオヌプリの頂上は平坦な火山灰地だ。頂上らしいものが何もなく、鉄製の標識をコンクリートで固めたケルンが立っている。頂上からは、大沼やニセコの全山、羊蹄山が見える。イワオヌプリの山頂の西には標高1039mの小イワオヌプリがある。本峰のイワオヌプリと小イワオヌプリは、ともに輝石安山岩からなる溶岩円頂丘である。

イワオヌプリから下山し、イワオヌプリ分岐から進路を右に（北）に進むと、すぐにもう一つの分岐がある。右（北）に進むとかつての硫黄鉱山跡を経由し、大沼に至る。今回は左（西）のニトヌプリへ進む。

ニトヌプリ（北峰）の標高は1080mで、その山頂上を市区町村界が通っている。市区町村界の東側が倶知安町で、西側が蘭越町である。北峰と南峰を持つ双耳峰であり、登山道は北峰を通っている。北峰も南峰も輝石安山岩質の溶岩噴火によって作られたものだ。ニトヌプリから北西へ下りてゆくと、岩が大きく、意外と歩きにくい。標高832mで道道66号（パノラマライン）にぶつかる。標高832m地点を市区町村界が通っていて、その北側が共和町で南側が蘭越町である。この大会では、道道66号（パノラマライン）までチーム行動であり、ここから先は隊行動となる。パノラマラインを少し歩き、チセヌプリの登山口へ向かう。

チセヌプリは、アイヌ語で「家形の山」という意味である。台形の山であり、頂上が平坦に見える

のは、浅いクレーターによりへこんでいるためである。

チセヌプリの登山口は道道66号（パノラマライン）にあり、ここはチセヌプリとニトヌプリの科尔である。標識には「北口」とあるが、実際にはチセヌプリの真東に位置し、登山口の標高は832mである。頂上までの標高差は303mである。登山口から山を見ると、かん木に覆われているのが見える。かん木に隠されて下からはわからないが、下はごろごろの岩である。

高度が上がると、斜面は、笹とダケカンバに覆われる。振り返ると（東を見えると）ニトヌプリが見え、ニトヌプリの後方にはイワオヌプリ、ニセコアンヌプリ、羊蹄山が見える。チセヌプリの頂上は平坦な草地であり、市区町村界が通っている。その北側は共和町で南側が蘭越町である。ハイマツ越しに浅い火口底にできた二つの沼と周囲に広がる湿原が見える。沼は大きい方で直径10mほど。モウセンゴケ、ツルコケモモ、イワイチョウ、ショウジョウバカマ、タチギボウシなどの湿原性の高山植物を見ることができる。

チセヌプリを西に下りると、西口（湯本温泉）コースとの分岐が、標高870m付近にある。この分岐は蘭越町に位置する。分岐から南に進むと、湯本温泉に至るが、廃道となっており、立ち入ることはできない。

分岐を北西に進むと、チシマザサに覆われたチセヌプリとシャクナゲ岳の科尔の分岐に出る。科尔の分岐を右（北）に向かうと長沼へ、左（北西）に向かうとシャクナゲ岳に続く。この分岐も蘭越町に位置する。

科尔の分岐から北へ進むと長沼の沼の南端に出る。長沼は南北に長い沼で、登山道は西岸をたどる。初夏には雪解け水により沼の水かさが増し、登山道が水没していることもある。

長沼の北には分岐があり、右（北東）に進むと道道66号と神仙沼に至り、左（北西）に進むと、こちらも道道66号に至る。ここでは、神仙沼方面へ向かう。長沼から神仙沼にかけては、チシマザサとダケカンバ、時にハイマツが混じる道である。

神仙沼の手前に分岐があり、左（北）に向かうと道道66号沿いにある神仙沼レストハウス（レストランと大きな駐車場のある休憩所）に至り、右（東）に進むと神仙沼に着く。神仙沼から神仙沼レストハウスまでは木道が設置されている。神仙沼レストハウスの標高はおよそ750mであり、共和町に位置する。神仙沼レストハウスが今回の山行のゴールとなる。

コース概況2 羊蹄山 真狩コースから比羅夫コース

羊蹄山は、円錐形（コニーデ型）の成層火山である。羊蹄山の活動は、約5～6万年前から開始し、4万年前までに古羊蹄山が形成され、その山体の大規模崩壊の後、新羊蹄山の活動が開始した。約4000年前の噴火による溶岩流は、現在の倶知安町市街の一部まで到達している。最後の噴火は約2500年前の山頂噴火である。現在、噴気活動は認められない。羊蹄山は別名「蝦夷富士」と呼ばれている。羊蹄山地域は（1949年）昭和24年から支笏洞爺国立公園に指定されている。日本書紀に659年に阿倍比羅夫（あべのひらふ）が後方羊蹄（しりへし）に政庁を置いたと記され、松浦武四郎がこれをもとに山の名を後方羊蹄山（しりべしやま）と名付けた。羊蹄山のアイヌ名は「マッカリヌプリ」である。

この日の山行で使用する国土地理院発行25,000分の1地形図の図葉名は、「羊蹄山」と「倶知安」であるが、いずれも磁北は西偏およそ10度である。この山への登山コースは比羅夫（倶知安）コースのほか真狩コース、喜茂別（留産）コース、京極コースの4つがある。

羊蹄山は垂直分布が明瞭な山で、シナノキやエゾイタヤの大径木を含む森林が山麓から二合目（500～700m）あたりまで見られる。その上の四合目（700～1000m）近くになると、針葉樹のエゾマツとダケカンバが優勢となり、それ以上は矮小化・耐雪圧型化したダケカンバが優占する。そして九合目以上は高山植生が優占する高山帯になる。7月上旬から8月上旬には標高1700m以上で100種以上の高山植物が花を咲かせる。植生が豊かなため生息している動物類も多く、キタキツネ、イタチ、エゾクロテン、エゾリス、シマリス、エゾモモンガ、エゾユキウサギなどの哺乳類が多数生息している。野鳥も130種以上確認され、その中には日本国内最大のキツツキであるクマゲラも含まれる。

この日の山行は、真狩キャンプ場の奥にある登山口のすこし手前からチーム行動でスタートする。コースの途中に水場はない。しばらくは林の中を進み、見通しはきかない。すぐに寄生火山である南コブへの分岐点を通る。南コブの標高は650.1mである。南コブ分岐を過ぎると間もなく二合目である。四合目から先は傾斜がきつくなり、ジグザグの道となる。斜面を登ると、時折、洞爺湖、昭和新山、有珠山が見える。

六合目手前で、急なガレ場を登っていく。初夏は残雪があり、道を間違えないよう注意が必要だ。標高1600mの八合目から、山頂から南西にのびる尾根を巻き空沢のガレ場を通るが、初夏には残雪が残りトラバースする際は注意が必要である。この付近で、イワギキョウ、イワブクロなどの高山植物が現れる。視界も開けて真狩が見られるようになり、噴火湾や、渡島半島の駒ヶ岳も見ることができる。やがて、九合目手前の分岐点だ。ここの標高はおよそ1660mである。分岐を右（東）に進むと外輪山に出る。そこまでに、マルバシモツケ、エゾノツガザクラ、ハクサンチドリ、ミネアザミなどが見られる。今回はこの分岐の左（北）のルートをとる。

すぐに避難小屋が見えてくる。避難小屋の標高はおよそ1670～1680mであり、ニセコ町に位置する。避難小屋までの道の両端には、イワブクロ、ウメバチソウ、ハイオトギリ、タカネニガナなどが見られる。この大会では、避難小屋までチーム行動であり、ここから先は隊行動となる。

避難小屋には山開き期間内は、管理人が常駐していて、避難小屋の維持管理と併せて、「自然保護監視員」として、施設の維持管理、衛生状態、利用状況等の管理に関する現地指導と、自然公園の環境の保全及び監視・指導を行っている。避難小屋に宿泊することは可能ではあるが、小屋はあくまで緊急避難用となるので、倶知安町は登山者に日帰り登山を最優先とした計画を立てるようお願いして

いる。また、羊蹄山登山道・避難小屋周辺などでのテント泊は自然公園法で禁止されている。

現在の避難小屋は、環境省が平成26年度に、老朽化した旧避難小屋の隣に建設した。旧避難小屋は、平成28年度に後志総合振興局環境生活課が解体したが、旧避難小屋の跡地は環境省ほか関係機関と協議の上、当面の立入を制限し自然植生の復元を図る予定である。

避難小屋を通過してさらに進めば、左手に星ヶ池があり、そのまま比羅夫コースに合流する。合流地点の標高はおよそ1680mであり、比羅夫コースの九合目になる。

この分岐を右（東）に登ってゆくと、左手にはカール状の地形が見られる。標高1790m付近の分岐を直進する（東に向かう）と、火口の縁に出る。目の前の火口のそこに見られるのは母釜と子釜であり、倶知安町に位置する。一番大きな火口は父釜と呼ばれ、周囲5km、深さは200m、最大径は750mある。母釜の北にある北山の標高は1843.4mである。

母釜と子釜を越えてピークを目指す、火口縁の北側には山火事で枯死したハイマツが見られる。京極コースと合流するとピークは目の前である。ピーク付近の三角点の標高は、1892.7mであり、真狩岳と呼ばれる。その先にある、羊蹄山の最高点は1898mである。

火口周辺は高山植物が多い。オノエリンドウ、タカネキタアザミ、ヒメイワタデ、メアカンキンバイ、ミヤマキンバイ、イワギキョウ、コメバツガザクラ、エゾノツガザクラ、キバナシャクナゲなどである。オノエリンドウは日本アルプス以外には羊蹄山にしか分布しない。タカネキタアザミは大雪山・十勝岳連峰・戸蔭別岳・羊蹄山の特産である。メアカンキンバイは羊蹄山が南限と言われている。

コマクサはもともと羊蹄山や樽前山には自生していなかったが、人為的に種子が持ち込まれたことにより、移入・定着するようになった。人為的な移入が本来の生物分布を変えてしまう恐れがあることから、羊蹄山や樽前山では「コマクサの除去」が行われている。なお、国立公園内でコマクサのような国内外来種を含め、植物を損傷（切り取る、傷つける）、採取（根っこごと取る）する場合には、事前に許可を要する場合があります、注意が必要だ。

羊蹄山は成層火山なので、アップダウンがなく、低地から高山へと植物の垂直分布の様子が顕著なので、比羅夫コースと山頂部が「後方羊蹄山（しりべしやま）の高山植物帯」として天然記念物に指定されている。指定を受けたのは1921年（大正10年）である。

下山は、北山を経由し、比羅夫コースの登山口を目指す。避難小屋へ向かう分岐付近にはハイマツが多く、岩れきに覆われている。ここから下は、つづら折りとなっている。六合目付近では、チシマザザ、ダケカンバ、ハイマツが見られる。五合目付近では、ダケカンバ、ウコンウツギが見られる。

五合目から下では、エゾマツの林が現れ、三合目付近まで続く。特に、四、五合目付近には大木がある。このようなエゾマツの林は羊蹄山の他のコースでは見られない。二合目から下はジグザグ道となる。

一合目付近の風穴には、暗い穴の中に黄緑色に光るヒカリゴケが見られる。天然の林が見られるが、登山口に近づくにつれ、トドマツ、カラマツの人工林となる。登山口には駐車場とトイレと水場が整備されている。登山口の下には、半月湖があり、その周りを一周できる遊歩道が整備されている。半月湖周辺はエゾマツやトドマツの針葉樹とイタヤカエデやダケカンバなどの広葉樹が混成する針広混交林となっており、その中には直径が1mを超えるミズナラ等の大木を見ることがある。周辺の森ではキビタキに代表される夏鳥が多く、キツツキ類やカラ類が見られ、湖面には、渡りの時期にカモ類が飛来し、森林ではエゾリスやシマリス、モモンガなどが生息している。

大会参加校数一覧

支部名	全道大会						支部大会			
	参加校数			参加者数			参加校数	参加者数		
	男	女	計	男	女	計	合計	男	女	計
札幌	3	4	7	12	16	28	7	69	36	105
室蘭	1	1	2	4	4	8	2	22	11	33
小樽	1	1	2	4	4	8				
南空知	1	0	1	4	0	4				
旭川	3	3	6	12	12	24	5	57	23	80
北見	1	1	2	4	4	8	2	32	12	44
十勝	2	2	4	8	8	16	3	26	15	41
釧根	1	1	2	4	4	8				
函館	2	0	2	8	0	8	3	19	5	24
計	15	13	28	60	52	112	22	225	102	327

先輩の踏み跡

全国大会優秀校

回	期 日	会 場	当番高校	優勝校 (男)		優勝校 (女)
1	1962.7.10～7.12	大雪山系	旭川東	芦 別		旭川東
2	1963.6.29～7. 1	大雪山系	上 川	札幌南	苫小牧東	芦 別
3	1964.7. 2～7. 4	ニセコ連峰	倶知安	旭川東	小樽千秋	旭川東
4	1965.7. 2～7. 4	富良野岳・十勝岳	富良野	増 毛	遠 軽	旭川東
5	1966.6.24～6.26	十勝岳・美瑛岳 美瑛富士	美 瑛	旭川東	増 毛	旭川東
6	1967.6.22～6.24	樽前山・風不死岳 恵庭岳	苫小牧東	旭川東	北見柏陽	旭川東
7	1968.7. 4～7. 5	ウベペサンケ	帯広三条	旭川東	芦 別	旭川東
8	1969.7. 3～7. 5	芦別岳・富良野西岳	芦 別	芦 別	帯広柏葉	芦 別
9	1970.7. 2～7. 4	横津岳・駒ヶ岳	遺愛女子 函館西	標 茶	帯広農業	遺愛女子
10	1971.7. 1～7. 3	大雪山系	旭川商業	芦別工業	旭川東	芽 室
11	1972.6.29～7. 1	知床山系	北見柏陽	旭川東	北見北斗	標茶農業
12	1973.6.28～6.30	十勝連峰	旭川東	深川西	函館有斗	旭川東
13	1974.7. 4～7. 6	天狗岳・余市岳	北海道工業	函館有斗	増 毛	芽 室
14	1975.6.26～6.28	羅臼岳・羅臼湖	標茶農業	標茶農業	増 毛	標茶農業
15	1976.6.23～6.25	夕張岳(日陰の沢)	美唄工業	小樽工業	小樽工業	標茶農業
16	1977.6.22～6.24	天塩岳	士 別	旭川東	北見北斗	標茶農業
17	1978.6.28～6.30	大千軒岳	函館有斗 函館白百合 函館ラ・サール	標茶農業	小樽工業	函館白百合
18	1979.6.28～6.30	室蘭岳・カムイヌプリ	室蘭工業	八 雲	旭川東	函館白百合
19	1980.6.26～6.28	ニセコ連峰	小樽工業	北見北斗		北見北斗
20	1981.6.25～6.27	空沼岳・札幌岳	札幌慈恵	富良野工業	北見北斗	函館白百合
21	1982.6.23～6.25	夕張岳	夕張工業	檜山北		旭川商業
22	1983.6.23～6.25	暑寒別岳・雨竜沼	砂川南	富良野工業	八 雲	北見北斗
23	1984.6.21～6.23	富良野岳・芦別岳	富良野工業	帯広柏葉		北見北斗
24	1985.6.20～6.22	斜里岳・羅臼岳	網走南ヶ丘	東 川	網走南ヶ丘	網走南ヶ丘
25	1986.6.26～6.28	雄阿寒岳・雌阿寒岳 阿寒富士	標 茶	北見北斗		標 茶
26	1987.6.17～6.20	羊蹄山・アンヌプリ チセヌプリ・目国内岳	札幌新陽	小樽工業	北見北斗	旭川東栄
27	1988.6.23～6.25	ウベペサンケ山・ニペソツ山	帯広柏葉	小樽工業		旭川東栄
28	1989.6.22～6.24	駒ヶ岳・狩場山	函館中部 檜山北 遺愛女子	富良野工業	小樽工業	旭川東栄
29	1990.6.21～6.23	幌尻岳・トッタベツ岳	苫小牧東 静 内	小樽工業		旭川東栄
30	1991.6.20～6.22	羊蹄山・目国内岳・雷電山	倶知安	小樽工業	札幌稲西	江 別
31	1992.6.18～6.20	富良野岳・芦別岳	富良野	小樽工業		江 別
32	1993.6.23～6.25	夕張岳	夕張緑ヶ丘実業	旭川東	富良野工業	旭川東
33	1994.6.23～6.25	硫黄山・羅臼岳	北見北斗	旭川東		旭川東
34	1995.6.21～6.23	余市岳・無意根山	札幌稲西	旭川東	富良野工業	札幌南
35	1996.6.27～6.29	沼ノ原・トムラウシ山	帯広農業	札幌南		江 別
36	1997.6.19～6.21	恵山・海向山 白水岳～遊楽部岳	函館東 檜山北 函館ラ・サール	札幌南	札幌工業	北見北斗
37	1998.6.24～6.26	アポイ岳・イドンナップ岳	静 内	旭川東		北見北斗
38	1999.6.17～6.19	十勝連峰	富良野緑峰	札幌南	旭川東	北見北斗
39	2000.6.21～6.23	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	札幌南		北見北斗
40	2001.6.20～6.22	羊蹄山・ニセコ山系	小樽湖陵	札幌南	札幌工業	旭川東
41	2002.6.26～6.28	美唄山・樺戸山地	美唄工業	札幌工業		北見北斗
42	2003.6.25～6.27	知床硫黄山・羅臼岳	北見北斗	北見北斗	札幌南	札幌南
43	2004.6.23～6.25	十勝幌尻岳・伏美岳 ピパイロ岳	帯広農業	江 別		北見北斗
44	2005.6.22～6.24	無意根山・羊蹄山	札幌南	札幌南	江 別	八 雲
45	2006.6.21～6.23	白水岳・狩場山	函館ラ・サール	札幌南		八 雲
46	2007.6.20～6.22	ベンケヌーシ岳 チロロ岳	静 内	札幌南	北見北斗	北見北斗
47	2008.6.25～6.27	美瑛岳・旭岳	旭川東	旭川東		北見北斗
48	2009.6.24～6.26	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	旭川東	札幌北	旭川東
49	2010.6.23～6.25	神威岳・烏帽子岳 札幌岳・空沼岳	札幌稲西	札幌北		旭川東
50	2011.6.21～6.24	岩内岳～目国内岳 羊蹄山	小樽桜陽	札幌北		旭川東
51	2012.6.26～6.29	ピンネシリ 南暑寒岳～暑寒別岳	岩見沢東	札幌北		北星学園女子
52	2013.6.25～6.28	斜里岳 羅臼岳	遠軽(協力校:北見北斗)	北見北斗		旭川東
53	2014.6.24～6.27	ウベペサンケ山・ニペソツ山	帯広柏葉	帯広柏葉		帯広柏葉
54	2015.6.23～6.26	風不死岳 樽前山 羊蹄山	札幌西	旭川東		旭川東
55	2016.6.21～6.24	長万部岳 狩場山	遺愛女子	旭川東		旭川東
56	2017.6.20～6.23	カムイヌプリ～室蘭岳 来馬岳～オロフレ山	室蘭栄	釧路湖陵		旭川東
57	2018.6.26～6.29	上ホロカメットク山～十勝岳 オプタテシケ山	旭川北	旭川東		釧路湖陵
58	2019.6.25～6.28	雄阿寒岳 雌阿寒岳	釧路北陽	帯広柏葉		釧路湖陵
59	中 止	(札幌岳・岩内岳・目国内岳・白樺山)	(北広島)			
60	2021.6.22～6.25	上ホロカメットク山～十勝岳 北鎮岳～旭岳	旭川北	旭川東		旭川北
61	2022.6.21～6.24	旭岳・黒岳～北鎮岳～中岳	旭川工業	旭川東		旭川東
62	2023.6.20～6.23	旭岳・上ホロカメットク～十勝岳	旭川東	旭川東		旭川東
63	2024.6.25～6.28	ニセコ連峰・羊蹄山	小樽湖陵			

全道高校体育大会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

北海道高等学校体育連盟
令和6年度全道高校体育大会当番校

北海道高等学校体育連盟及び令和6年度全道高校体育大会当番校は、大会参加申込書等を通じて取得される個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下の通り対応します。

1 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会プログラムに掲載されます。
- (2) 競技場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3) 競技場内外の掲示板等に掲載されることがあります。

2 競技結果(記録)等の取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 大会プログラム掲載の個人情報とともに、当番校が作成する大会報告書(以下報告書という)に掲載されます。
- (3) 新記録、優勝及び上位入賞結果(記録)等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

3 肖像権に関する取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 当番校が認めた報道機関が撮影した映像が中継または録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD等に編集され、配付されることがあります。
- (3) この他、北海道高等学校体育連盟の許可に基づき、記念写真等が販売されることがあります。

4 当番校としての対応について

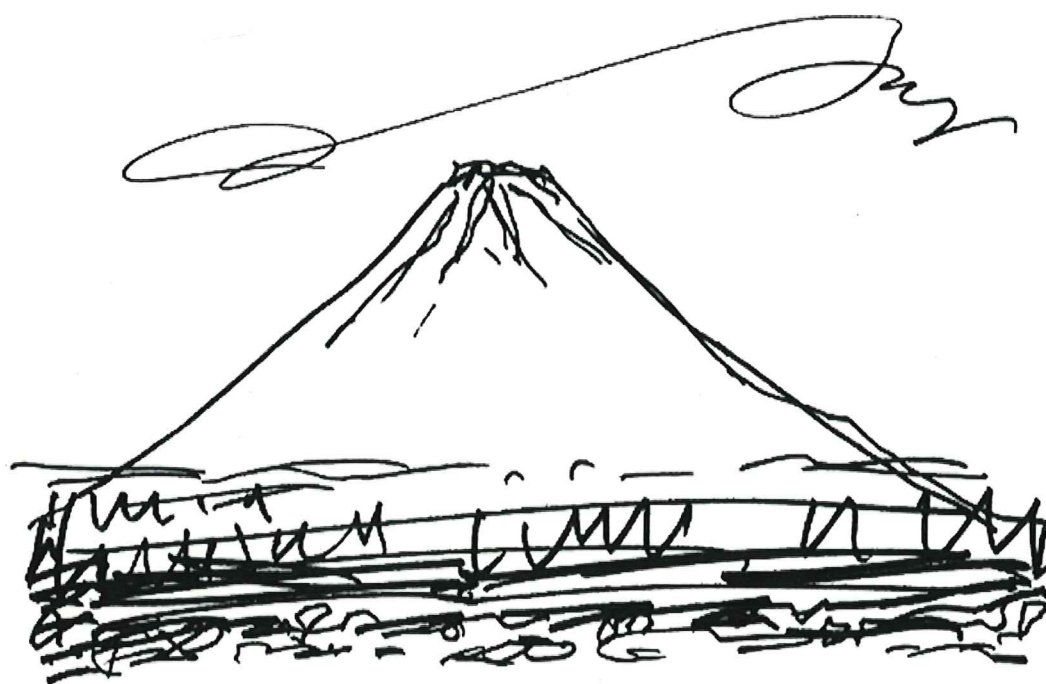
- (1) 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
- (2) 参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして、対応させていただきます。
- (3) 大会役員、競技役員、運営委員、その他各種委員や補助員、当番校と大会に関する契約をしている者、大会運営関係者の皆様につきましては、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (4) 記念写真等の販売について業者から直接当番校へ問い合わせがあった場合は、一括道高体連事務局で対応しますので業者へご連絡ください。
- (5) 個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、北海道高等学校体育連盟事務局までご連絡ください。

連絡先・問い合わせ先
北海道高等学校体育連盟事務局
011-826-3300

祝

第63回 北海道高等学校登山選手権大会
兼
第68回 全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2024年6月25日(火)～28日(金)
ニセコ連峰(チセヌプリ・ニトヌプリ・イワオヌプリ)羊蹄山



協賛：北海道の山の店 秀岳荘